

看護学部 看護学科 (令和8年度入学生) 履修系統図

【教育課程編成・実施の方針】(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程の編成、教育内容】

看護学部のカリキュラム編成においては、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)で示された卒業時に修得すべき能力を、学生が4年間でバランスよく、確実に修得できるように科目を配置しています。また、教育の方法は、学生の主体性を引き出し、学生自らが進んで調べて考えるという学ぶ力を身につけることを重視するアクティブ・ラーニングを主体としています。

したがって教員には、アクティブ・ラーニングの理念を理解し、教授方法を修得すること、学習環境を整え、明確な課題と学習目標を設定して学生の学習を支援することが求められています。

- ケアすることの価値について熟考し、自分自身の実践の核となる看護観を構築できるように支援する。
- 教養科目を充実させ、安定した人間性と高い倫理観の醸成や、人間、社会、環境の理解など学際的な知識の理解を支援する。
- 「知識を与えるだけの教育」から「自ら考える力を醸成する教育」への転換を図り、学生自らの気づきや考えを自由に表現し、行動に移せるように支援する。
- 健康が人々の生活や文化に密接に関係していること、生活を支援することがどういふことを深く理解して、生活に着目した看護が実践できるような講義、演習、実習の繋がりを重視した教育を行う。
- 多様な実習の場を提供し、体験学習を通して、地域におけるケアの重要性を認識できる教育を行う。
- 他職種と連携・協働する重要性和その方法を理解するために、実際の活動を通して実践的に学べるよう支援する。
- グローバルな視野で世界の健康課題を理解できるよう異文化体験、海外研修等の教育内容を提示する。
- 学生が看護学を基盤とした自らのキャリアデザインを描けるように支援する。

【教育方法】

(1) 常に看護とは何かを探索し続け、新たな看護の創造に貢献できる人材を育てます。専門科目において、大学基礎演習(看護基礎ゼミ)、看護と倫理、看護研究法、課題研究、統合実習などの看護について探索し、思考することを学ぶ科目を、学生の学習レベルに応じて段階的に配置します。

(2) 人を生活者として理解するために、1年次から実習を配置します。2年次・3年次では、病状や健康障害による生活への影響と人々の反応に着目した看護の原理と方法を学ぶ実習科目を配置します。

(3) 多職種との連携や協働について学び、看護の責務と役割を理解するために、一般教養科目、専門科目における講義、実習を配置します。

(4) 学習者の主体性を引き出し、自立して行動できる力を育てる教育を行います。講義・演習科目において、アクティブ・ラーニングを推進します。また、看護実践でのあらゆる状況、患者の状態を学習者の学習準備状況に合わせて再現した環境での体験型学習であるシミュレーション教育を行います。

【学修成果の評価方法】

教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。具体的な評価指標は次の4項目。

- 授業目標への到達度の総合的評価：各科目において、定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等
- 看護実践力評価：演習科目、実習科目における取り組み、看護師国家試験模試、看護師国家試験
- 半年ごとの自己省察と目標修正・設定(学修ポートフォリオおよび上記(1)(2)をもとに、担任教員またはチューター、実習担当教員と面談を行う)
- 就職先アンケート、卒業生アンケート

身につけるべき能力	種別	1年次	2年次	3年次	4年次
① 高い倫理観を備え、他者と関係を築く力 1) 人間を多局面から総合的に理解することができる。 2) 他者と相互理解を深め、成長し合う関係を築くことができる。 3) 人間の尊厳と権利を擁護することができる。	健康と生活	生活健康論	保健行動論		
	社会保障と健康政策		社会保障制度		
② 課題を発見し、対応する能力 1) 情報を目的に応じて活用することができる。 2) 課題を発見し、優先順位をつけて、課題解決の方法を考えた対応ができる。 3) 学際的な幅広い知識と看護学の専門知識を体系的に修得することができる。	看護の基盤	大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護概論 ライフサイクルにおける発達課題と健康	コミュニケーション論	看護と倫理	
	助産師コース	初期実習 I 初期実習 II			助産学概論 助産管理論
③ 健康と生活を包括的、継続的に支援する看護実践力 1) 特定の健康課題に対応した生活を支援する看護実践ができる。 2) 科学的根拠に基づく看護実践ができる。 3) 地域の健康課題をとらえ、課題解決のための方法を見出し実践できる。	身体のしくみと働き	人体の構造と機能 I 人体の構造と機能 II	栄養と代謝 病態生理学 臨床心理学		
	疾病からの回復過程		疾病と治療 I 疾病と治療 II	疾病と治療 III 薬理学	
	健康と生活			精神保健	
	社会保障と健康政策				
	看護の基盤	生活支援論			
	療養生活支援看護			看護治療技術演習 フィジカルアセスメント 療養生活支援論(成人・高齢者) 療養生活支援技術演習 I 療養生活支援技術演習 II	療養生活支援技術演習 I 療養生活支援技術演習 II
	女性の健康と生育支援看護			女性の発達課題と健康 成育生活支援論 成育療養生活支援技術演習 母性生活支援技術演習	成育療養生活支援技術演習 母性生活支援技術演習
	コミュニティにおける継続的な看護			家族の健康課題と生活支援 在宅療養生活支援論 産業保健論	在宅療養生活支援技術演習 産業保健論
	健康の増進と疾病予防の看護			地域生活支援論 I	地域生活支援技術論
	看護の探求と統合				看護政策
④ 看護者の責務を認識し、他職種と協働する力 1) 社会における看護の役割と債務を理解できる。 2) 他職種の専門性を尊重し、情報交換や問題解決のための連携ができる。	助産師コース			助産診断・技術学 I 周産期医学	助産診断・技術学 II 助産診断・技術学 III
	社会保障と健康政策	保健行政論			
	療養生活支援看護		生活支援技術演習	療養生活支援基礎実習	療養生活支援実習 I(急性期・回復期) 療養生活支援実習 II(慢性期) 療養生活支援実習 III(老化に伴う健康課題)
	女性の健康と生育支援看護				母性生活支援実習 成育療養生活支援実習
	コミュニティにおける継続的な看護			災害看護支援論 精神健康と生活支援 健康教育論	精神療養生活支援技術演習 災害看護支援技術演習
	健康の増進と疾病予防の看護				在宅療養生活支援実習
	保健師コース			地域生活支援論 II	地域生活支援技術演習 I 地域生活支援技術演習 II 地域母子保健
	助産師コース				助産技術学演習 I 助産技術学演習 II 助産実習
	養護教諭コース			養護概説 健康相談	養護実習
	⑤ 変化を生み出す力 1) 社会の動向や人々のヘルスケアニーズの変化に関心を持つことができる。 2) 新たな健康課題に対応し、主体的・創造的に看護を実践しようとする態度を身につけることができる。 3) 自分の力を信じて挑戦し続けることができる。	社会保障と健康政策		保健統計学	
看護の基盤		看護の歴史		ケースマネジメントと多職種連携 看護システムマネジメント論 看護管理実習	統合実習
⑥ 国際的活動の基本的能力 1) 世界の様々な国や地域の健康上の課題とその背景を理解できる。 2) 異文化や異なる価値観を持つ人を受け入れ、関係を築くことができる。 3) 看護専門職として国際貢献に関心を持つことができる。	健康と生活		疫学		
	社会保障と健康政策			医療と経済 看護研究法	課題研究
⑦ 自己研鑽を継続する能力 1) 生涯を通じて、自発的な能力開発を継続しようとする態度を身につける。 2) 看護を探究し続けるために、自己の課題を見出すことができる。	社会保障と健康政策		国際保健		グローバルヘルスと国際看護 国際看護フィールドワーク
	看護の探求と統合		キャリアマネジメント		